



## で き ご と

11月5日(水)に当館を会場として、「新刊児童図書巡回展示研修会」が開催されました。

当館職員による「新刊児童図書紹介」、県総合教育センター指導主事による「学校図書館機能充実のための選書のあり方」の後、元浜松市立中央図書館長であり、司書として長らく児童サービスに力を注いでこられた松本なお子氏に、「新刊児童図書の選書について—公共図書館の視点から—」と題して、講義をしていただきました。講義後は、約1,300冊用意した新刊児童図書の自由閲覧と、選書の相談に応じました。子ども図書研究室が10周年を迎えた本年度、約80人の子どもと本とを結ぶ活動に関わる方々が集まり、熱気のある研修となりました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

11月10日(月)、11日(火)に「平成26年度国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座」がありました。今年度のテーマは、「児童文学とそのマルチメディア化」でした。最近の子どもたちの多くは、児童文学に映画やアニメを通して触れるだけで満足し、原作を読む子どもは多くありません。一方で、『トムは真夜中の庭で』のように映像化されないがために、現代の子どもたちにほとんど知られていない名作もあります。そこで、原作至上主義を唱えるのではなく、「原作が映像化される時にどのような力が働いて、どのように改変されるか」、さらに映画やアニメから原作へつなげる方法について4人の講師から講義がありました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

### ◇子ども図書研究室のテーマ展示◇

- ◆「鬼の本」2010年から2014年に出版された本の中から鬼が出てくる本を集めました。
- ◆「静岡県図書館大会 武田美穂氏講演会 関連図書」子ども図書研究室所蔵図書をご紹介します。

### ◇イベント情報 その1◇

#### ◆新着児童図書を語る会「新刊サロン」

新刊を囲んで気軽におしゃべりしてみませんか?「新刊サロン」は、利用者も職員も一緒に、新刊について自由に語り合う会です。

日時:平成26年12月20日(土曜日)  
午前10時半~正午

会場:県立中央図書館1階 子ども図書研究室

対象:児童書に関心のある15歳以上の方  
(中学生を除く)

定員:10名程度

申込:来館・電話・FAXまたはメールのいずれかの方法でお申し込みください。

電話:054-262-1246

FAX:054-264-4268

メール:webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

※FAX、メールは件名を「新刊サロン」とし、氏名、電話番号を記入してください。

### ◇イベント情報 その2◇

#### ◆平成26年度浜松市読書推進講演会 「音を感じる読書を目指して」

講師の三宮麻由子さんは、聴覚・触覚・嗅覚・味覚の四感と、独自の「自然感」を研ぎ澄ませ、この世界の豊かさを言葉で紡ぐエッセイスト。自然体験や本に寄せる思い、自身の読書体験についてお話していただきます。

日時:平成27年1月17日(土曜日)  
午後2時~4時

会場:なゆた・浜北3階 大会議室  
(浜松市浜北区貴布祢3000番地  
/遠州鉄道 浜北駅前)

講師:三宮麻由子さん(エッセイスト)

定員:200人(先着順)

申込:電話(053-456-0234)

または直接浜松市立中央図書館へ  
※できるだけ公共交通機関をご利用ください。

## 県立中央図書館 新刊児童図書巡回展示研修会

**当**館職員による新刊児童図書紹介では、出版状況、世界文化遺産に登録された富士山に関連した図書、新訳や復刊状況などの紹介がありました。次に、県総合教育センターの飯島指導主事から、「学校図書館機能充実のための選書のあり方」と題して、学習指導要領における学校図書館の位置付け、それに基づく学校図書館活用授業とその選書のあり方について、お話しいただきました。その中で、今年の3月に出された『静岡県子ども読書活動推進計画（第二次中期計画）』における学校図書館の位置付けや、静岡県生涯学習情報発信システムの「いきいき学校図書館」での情報発信についても言及されていました。その後、「新刊児童図書の選書について—公共図書館の視点から—」と題して、松本なお子氏から講義をしていただきました。



**ま**ず選書の意義については、利用者の要求、及び図書館への信頼に応え、限られた予算を有効に使うことにあります。この意義を踏まえた上で、各館の現状に合わせた選書を行っていくことが大切です。

**次**に、実際の選書を行う前に確認すべき事項として、「選書の基盤」の5点があります。それは、①「選書方針」②「現状の蔵書構成」③「役割（収集範囲・分担）」④「利用状況」⑤「予算」の確認のことです。①には、忘れがちな除籍規準も入っており、これなしには蔵書を適正に保つことはできません。②では、基本図書と更新図書（時代や状況に合わせて更新していく資料）のバランスの適正さを確認します。③では、その図書館が担うべき役割を確認します。例えば、中央館か分館か、独立した児童室か児童コーナーか、といったサービス規模のことから、学校図書館等の関連施設と連携しているかということまで、選書に関わってきます。④で利用者層や利用冊数・よく読まれている本

のチェックをします。こちらが手渡したい本と子どもによく読まれる本が、一致しないことはよくあります。それでも良い本を選書して、地道に手渡していく必要があります。⑤では、限られた予算の適正な執行のために、執行計画を立てます。予算配分は、基本図書分（買い替えを含む）と新刊図書分の購入バランスを考えて行います。児童書は、新刊をすぐに購入する必要はなく、児童関連雑誌等の書評を参考にじっくり選書してほしいものです。また、リクエスト購入については、館の選書規準に合っているか等を、選書会議で検討して決めていきます。概して子どものリクエストは、類書で間に合うことが多いものです。

**実**際の選定には、現物選定とリスト選定があります。どちらにもメリット・デメリットがありますが、内容を確認できる現物選定の方が失敗はありません。個々の資料の選定には、定番とされている作品との比較や、選定上の許容範囲も各館で確認しておくことが大切です。



**松**本氏には、今回で3度目の講義をしていただきました。その時の報告は、『子ども図書研究室だより』NO.65、69に掲載しましたので、そちらをご覧ください。

**講**義の後には、今年4月以降に発行された約1,300冊の新刊児童図書の現物閲覧と選書相談を行いました。この研修会が参加された方々のそれぞれの館で、選書業務の参考になればと思います。

### 所蔵資料から

研究



『こどもとしょかん』（季刊）

東京子ども図書館

1号（昭和54年4月）—

143号（2014年10月）+  
（継続中）

松本氏が講義の中で紹介した雑誌の一つで、児童文学の評論や厳選された児童図書の書評が掲載されている。

（小松）

## 児童文学連続講座「児童文学とそのマルチメディア化」報告

今年度の国際子ども図書館の児童文学連続講座は、『フランダースの犬』『床下の小人たち』『若草物語』『秘密の花園』について、野坂悦子氏、田中美保子氏、横川寿美子氏、川端有子氏がそれぞれ映像化された作品と原作との比較を中心にお話くださいました。その中から田中美保子氏による『床下の小人たち』についての講義を報告します。



大学生たちと接していると、ファンタジーはアニメで見るものだと思っている学生が増えています。学生たちにリストを渡して読ませると、「おもしろかったけれども、疲れた」という感想をよく聞きます。アニメばかり見ているために、活字から想像する力が鍛えられていないからです。



アニメは原作とは異なります。原作である『床下の小人たち』は、女の子の冒険譚の草分け、サバイバルの物語の始まり、魔力を持たない小人の誕生など、現代的ファンタジーの最初の作品だと言われています。このような作品がアニメ化されるにあたって、『借りぐらしのアリエッティ』では、主人公を「翔」と名付け、舞台を小金井に移し、もはや翻案と言ったほうがよいほど改変します。わかりやすいところでは、原作では、人間と小人との共存がテーマでしたが、アニメでは少年と小人の淡い恋の物語となります。そのため、エンディングが、原作では外の世界にワクワクしながら出て行くのに対し、アニメでは別れの寂しさが漂う描かれ方になります。



さらに問題なのが、アニメでは原作にあったイギリス的な生活意識、つまり質素儉約を是とする価値観がなくなっていることです。原作ではぜいたくなドールハウスを批判的に描い

ていますが、アニメでは豪華なドールハウスにアリエッティがあこがれています。この部分は、アリエッティのアイデンティティに関わる部分ですが、質素をよしとする価値観がアニメにはありません。アニメの中に豪華なドールハウスを登場させたのは、宮崎駿監督の拝欧主義が原因として考えられます。また、原作にあった人間のものを借りて再利用するというエコロジカルな思想も、アニメには見られません。豪華なドールハウスを実際に作って、日本各地のプロモーションで活用したことから明らかです。アニメ化されたことで、原作にある思想や価値観がなくなり、全く違う作品になってしまったのです。



最近の子どもたちは、活字を読んで想像する力がかなり弱くなっています。そうだとすると、映像化された作品にも頼らざるを得ないのが現実です。原作の世界観に触れるためにも、制作者に責任を持って原作のよさを壊さないよう映像化してほしいと思います。一方で、活字でしか体験できないものもありますので、活字による読書も大切にしていきたいと思います。



講義では、実際に映像を見ながら話をうかがい、原作のみではなく映像化された作品に対する理解も深まりました。児童文学連続講座の講義録は、翌秋に発行され、国際子ども図書館のホームページで見ることができますので、そちらもご覧ください。

### 所蔵資料から

研究



『国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 平成25年度』

国立国会図書館国際子ども図書館／編集・発行

2014年10月（閲覧室）

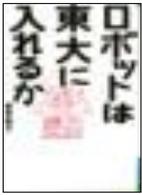
国際子ども図書館児童文学連続講座の講義録。前回の講座「英米児童文学をめぐる時代と環境」が掲載されている。

（青木）

## 新着資料から

知識

『ロボットは東大に入れるか』

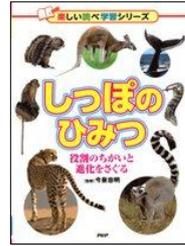


新井 紀子／著  
100%ORANGE／装画・挿画  
イースト・プレス  
2014年8月

本書は、国立情報学研究所の「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトについて書かれている。このプロジェクトは、東大合格が目標のように見えるが、途中でそれは大きな問題ではないと明かされる。それよりも、人間の脳の働きを数式で表現できるか、人工知能の進歩によって10年後、20年後にどの仕事が人間に残るのか、人工知能が平均的な労働者の能力を上回ることがあるのかの方が問題だという。開発者にすらゴールが見えない人工知能の「今」がわかる本である。【中学生から】（青木）

知識

『しっぽのひみつ』



役割のちがいと進化をさぐる』

今泉 忠明／監修  
PHP 研究所  
2014年9月

副タイトルのとおり、「しっぽの役割」と「しっぽの進化」の2章に分け、動物のしっぽについて解説する。チーターのしっぽは走る時にバランスをとるため、魚の尾びれは速く泳ぐためなど、写真とイラストが豊富で分かりやすい。また、海から陸へ上がるなどの生活の変化によるしっぽの形と役割の変化についても興味深く読める。もう少し詳しく知りたいと感じる記述もあるが、絵本『しっぽのはたらき』（福音館書店）などに通じるおもしろさがある。【小学校低学年から】（鈴木由）

文学

『チェシャーチーズ亭のネコ』



カーメン・アグラ・ディーディ／著  
ランダル・ライト／著  
バリー・モーザー／絵  
山田 順子／訳  
東京創元社  
2014年7月

のらネコのスキリーはチーズが大好きで、ネズミは喰わない。英国一チーズがうまいと評判のチェシャーチーズ亭に入り込み、ネズミのピップと秘密の取引をするが、ネズミたちはさらに大きな秘密を抱えていた。ネコとネズミの友情の行方、英国存亡の危機と大団円までの全てを見ていたのは、チーズ亭常連客の文豪ディケンズ。ラストにはヴィクトリア女王までも登場、チーズ亭のチーズを称賛する。挿絵も多く、魅力的で、個性豊かな動物たちの活躍を楽しむことができる。【中学生から】（鈴木由）

絵本

『トビのめんどり』



ポリー・アラキジャ／作  
さくま ゆみこ／訳  
さ・え・ら書房  
2014年8月

トビの飼っている鶏が一つずつ卵をうむたびに、友達の飼っている動物に子どもがうまれる。1週間、2週間が経過し、動物の子どもたちは、跳ねたり、じゃれたりするようになるが、トビと卵をかかえた雌鳥は、じっと待っているだけ。でも3週間目に、ひよこがかえり、やがてそのひよこたちも、卵をうむようになり、トビの庭は、鶏でいっぱいになる。舞台はアフリカで、トビをはじめ人々の生活に流れる時間は、ゆったりしている。待つことの楽しみが実感できる絵本である。【小学校低学年から】（小松）